

ぼくが生きてる、 ふたつの世界

伝えられない想いが
あふれます。

監督:呉美保 主演:吉沢亮 脚本:港岳彦

忍足亜希子 今井彰人 ユースケ・サンタマリア 鳥丸せつこ でんでん

原扶貴子 山本浩司 河合祐三子 長井恵里

原作:五十嵐大「ぼくが生きてる、ふたつの世界」(幻冬舎刊) 企画・プロデュース:山国秀幸

製作:「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会(ワンダーボタリー/博報堂DYミュージック&ビジュアルサービス/ギャガ/JR西日本コミュニケーションズ/アイ・ビー・アイ/アミューズ/河北新報社/東日本放送/シネマシティ)

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

©五十嵐大/幻冬舎 ©2024「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会 配給:ギャガ GAGA★ gaga.ne.jp/FutatsunoSekai/

母に背を向け、故郷を離れたぼく——。

繊細に紡がれる、きこえない母ときこえる息子、そしてあなたの物語。

GAGA★
GENDA GROUP

＊コード・きこえない、またはきこえない親を持つ聴者の子供

親子の物語が、そしてひとりのコードの心の軌跡が、点描のように紡がれていく……。監督は、本作が9年ぶりの長編作品となる、『そのみにて光輝く』『きみはいい子』の呉美保。作家・五十嵐大氏の自伝的エッセイを原作に、脚本は『正欲』の港岳彦。吉沢亮が、「きこえる世界」と「きこえない世界」を行き来しながら生きる主人公を体現、自身の居場所を見出していく若者の心を繊細に演じた。母・明子役には、ろう者俳優として活躍する忍足亜希子。

やがて母への想いが観る者の胸にも静かに温かく満ちていく、心に響く映画が誕生した。



母と息子、切なくも心に響く家族の物語

Story

宮城県の小さな港町、五十嵐家に男の子が生まれた。祖父母、両親は、“大”と名付けて誕生を喜ぶ。ほかの家庭と少しだけ違っていたのは、両親の耳がきこえないこと。幼い大に

っては、大好きな母の“通訳”をすることも“ふつう”の楽しい日常だった。しかし次第に、周りから特別視されることに戸惑い、苛立ち、母の明るささえ疎ましくなる。心を持って余したまま20歳になり、逃げるように東京へ旅立つ大だったが……。

映画「ぼくが生きてる、ふたつの世界」富田林上映会

(日本語字幕入り)

とき

7月20日(日)

開場時間 10:00 上映時間 10:30~12:15

ところ

プラネタリウムのある文化会館

すばるホール

〒584-0084 大阪府富田林市桜ヶ丘町2番8号

TEL: 0721-25-0222 FAX: 0721-25-0550

交通: 近鉄長野線川西駅から徒歩約8分、

南海高野線「金剛駅」下車南海バス「小金台二丁目」バス停から徒歩約8分

前売券1200円(当日券1500円) ※すばるホールチケットカウンターでも取り扱っています。

(※小中高校生は前売券はございません。当日券800円でご入場ください)

チケット販売所/すばるホールチケットカウンター

すばるホールインターネットチケット



<https://p-ticket.jp/subaruhall>

主催: 富田林市聴覚障害者関係団体協議会

協力: (公益財団法人) 富田林市文化振興事業団(予定)

お問い合わせ: 電話番号 090-2389-7311 FAX番号: 0721-35-5110 (24時間受付)

e-mail: tondabayashideaf@yahoo.co.jp